

此が当面のわが懸崖階級陣営のありのまゝの姿である。我が左翼陣営の指導力の減退は勿論支那階級の元にはその年々の率と敵底的なスパイ政策並に彼等のたくみかる逆宣傳及び現在まつたく支那階級の共同者として泣きつゝある社会民主主義者共のベツコ等々が其の根を根本的の原因をかかして居る事ゆゑであるが、同時に又我が左翼陣営の当面の混乱状態が多少なりとも其の原因をかかして居る事である。我々は卒直に認識しなくてはならぬ。

他方今や一切の社会民主主義幹部は急速にファシズム化してゐる。そして同時に社会民主主義幹部と、その指導下にある大衆との間の溝を刻々拡大してゐる。幹部の反動化は益々露骨にあらはれ、彼等と一般大衆との隔りは又より一層大きくおぼろげである。

D 労働組合戦線

旧労働組合評議会が解散されて以来、左翼労働組合戦線は非常なる混乱を重ねて来た。評議会再建の斗争は不断に続けられて来たが、一部のウルトラ連中によりて行方は小の腹を斗争は次の抑き結果を生んだ。

一 旧評議会加盟組合中大部力の分散孤立化  
 一 旧評議会加盟の組合中の或る部分の右翼 中間派への移行

一 組合の各法性獲得の徹底的失敗  
 殊に今日に於ては、組合の各法性を、自から放棄する意向さへ生じた。かゝる小児病的傾向に於ては断じて評議会の再建、左翼労働組合の拡大強化は不可能なりと、斬りかかる方針の下に、我が東京並に各地方組合中必に、評議会再建として、旧評議会を確立するに致つた。

左翼労働組合は一應は、旧評議会の旗の下に結成された。最近に於ける右翼陣営の顔面たるものは右翼組合の幹部が、社会愛国主義の色彩を極度に濃厚にし出した事、所謂中間派組合（全国労働連帯会等々）の幹部が露骨に右翼化の傾向を不して来た事である。だが右翼の結成は未だ、出来上つて居ないが、彼等は国際労働会議の代表権の工ヤを中心に見ていくと、暗闘を繰り返して居るが支那階級の巧みなる厚謀はやがて大右翼結成を成就せしめ大衆をギマンし、中善せしめんとするてある。

一 労働階級の身分ある斗争状態を有利に利用し、斗争の激発を行ふ事なく、協調主義を振りかざし、斗争の激発して血まみれに於つて居る、かゝる右翼幹部の鬼と露骨たる反動化に、かゝらざる、一般組合員大衆は決して反動化して居ない、勿論幹部を激発してしまふ程、意識的に左翼化しては、いかに、旧評議会の確立を見ても、あらゆる政治的、経済的、カレパニアに於て、右翼中間派組合の大衆と猛烈なる共同斗争を敢行し得る可成性は充分にある。